

金沢市立朝日小学校
平成 25 年度 学力向上の取組

1 学力等の現状分析

(1) 国語科

記述問題に対して苦手意識も無く、自分の考えを述べる事ができている。書くことを意識し、作文や日記などを意図的に取り組ませてきた成果と考えられる。しかし、個人差はあるが、漢字や資料の読み取りなど基礎的な知識理解、技能にやや課題が見られる。また、表現の工夫や効果について説明を求められる部分に課題が見られる。

(2) 社会科

ほぼ基礎基本の知識が定着しており、記述式の問題にも十分対応できる力が身につけている。しかし、自分の考えを社会的重要な用語を取り入れてしっかり説明したり、適切な表現方法で説明したりするまでには至っていない。

(3) 算数科

基礎的な計算処理については概ね良好と言えるが、公式や算数用語等の知識理解についてはやや課題が見られる。しかし、記述を伴う思考問題では、概ね良好な結果となり、ノートの中で、筋道立てて考える習慣を繰り返し行ってきた結果であると考えられる。

(4) 理科

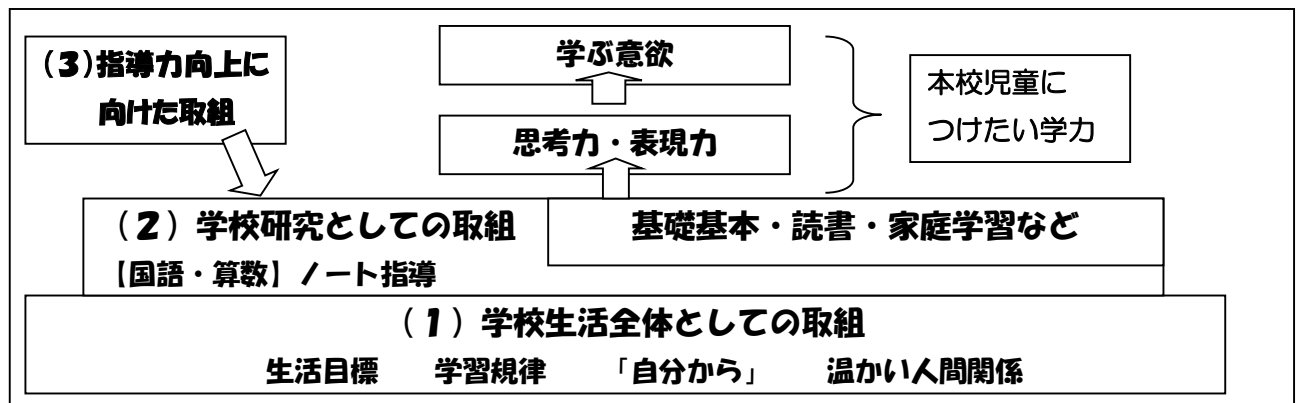
一般的に自然科学に関する知識理解が十分とは言えず、戸外へ出て実際に観察し記録する体験や視聴覚教材を使用した指導の工夫が求められる。また、自分の考えを適切に説明することにもやや課題が見られる。

(5) 全体的な傾向

昨年度から「書くこと」を重点に指導を続けてきたため、記述式の問題については、意欲的に取り組み、確実に自分の考えを自分の言葉で表現する力がついてきている。しかし、教科によっては、昨年度同様、必要な言葉を使いながら丁寧に説明することについて十分とは言えない。また、個人差はあるものの、基礎的な知識や技能についてやや課題が見られる。

2 25 年度学力向上の取組

以下のイメージを持って学力向上の取組を継続していきたい。



各項目における具体的な取組は以下の通り。

(1) 学校生活全体における取組

ア 生活目標の設定

本年度は、昨年度の反省から、年間を通して、時間を守ることを徹底させようという共通理解をもった。45 分間の授業時間をしっかりと学習に当てるとだけでなく、時計を見て自分で判断し、行動する意識を持たせ、学習や給食・そうじなどの学校生活にきちんと向き合っているようにしているところである。一定の効果が見られ、チャイムと同時に授業が始まり、規律ある中で学習が進められるようになってきている。

イ 『自分から』の合い言葉

昨年度後期から「自分から」を合い言葉に児童らが自分で考え、行動する姿を見守るよう心がけている。「自分で」は本校児童の学力的な課題でもある。小規模校であるため、自分で思考して知識を獲得するよりも、周囲の大人に知識を求めようとする傾向にあり、自ら積極的に学習を進めていく力が弱い。学校生活の中から、自分の行動を自分自身で決めさせる、

考えさせる機会を多く持たせることで学力向上の一助としたい。

ウ 学習規律の徹底

昨年度同様、学習規律の表を掲示し、全職員共通理解のもと、学習活動を進めていきたい。

エ 温かい人間関係作り

少人数であるため、互いの良いイメージも悪いイメージも固定化されがちである。人数が少ないからこそ、個の居場所作りを大切にしている。各行事ごとには、それぞれの良い面を見つけ、メッセージを送りあう活動(いいねの木)等も活性化させ、温かい人間関係を構築する中で、学力の定着につなげるようにする。



(2) 学校研究としての取組

主題「自ら学び、心豊かでたくましい行動力をもつ児童の育成」

副題 ～思考を高めるためのノート指導を通して～

H25年度は、昨年度に引き続き、書くことに重点を置き、取組を進めている。その中でも、児童が日々接するノートについて、「自分の考えを深めるためのノート、自分の考えを整理するためのノート」という意識をより強く持ち、ノートの評価を軸に学校研究を展開していきたいと考えた。ノートに書くことで児童自身に思考力や表現力がつき、また児童自身がそれを自覚し、学ぶことが楽しいと感じられる、そんな授業を目指して日々の取組を進めている。

【研究の重点】

重点1 書く力の基礎を養うための工夫

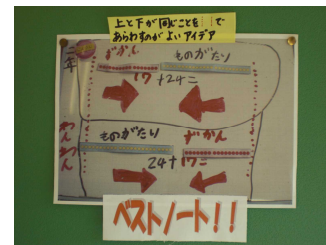
重点2 思考場面での支援項目の明確化

重点3 まとめ、ふりかえり場面での評価項目の明確化

重点4 学びの成果を発信し、確認する場の工夫

特に、重点2・3については、以下のように取り組む。

- ・児童が何を書いたらいいのか分かる掲示物を各教室に掲示する。
- ・月一回程度、各学年の児童が作成したノートを学校長と研究主任が確認し、成果と課題について、各担当に助言する。
- ・各教室にベストノートをポर्टフォリオ的に掲示する。



また、研究を支え学習の基盤となる、基礎基本、読書、家庭学習について以下のように取り組む。

ア 基礎基本の定着

- ・毎週月曜日を週末の宿題の確認の場とし、ミニテストを行う。(漢字)
- ・計算や漢字など、過去にさかのぼって繰り返し宿題として課題を出す。

イ 読書等

- ・学校全体の貸し出し冊数目標を決め、図書委員会でキャラクターを製作し、啓発する。
- ・月ごとにテーマを決め、テーマに沿った読書を勧める。
- ・個人の読書目標を月ごとに設定させ、月の終わりに確認する機会を設ける。
- ・朝読書の時間を週2回とする
- ・月初めに、俳句の材料となる写真を取りながら下校し、次の日の朝学習で俳句作りに取り組む。
- ・学校長・図書館司書を中心として、各月、覚えさせたい詩を選び暗誦に取り組む。

ウ 家庭学習

- ・学年×15分の家庭学習を設定。
- ・家庭学習ばっちり週間を今年度2回設ける。

(3) 指導力向上に向けた取組

ア 授業をふりかえる時間の確保

年に4回の研究授業をのぞいては、それぞれの授業を参観しあうことは難しい。故に、各人が自分の授業をビデオで撮影し、授業研究をする時間を確保する。(木曜放課後)さらに、撮影したものをストックし、年2回程度学校長とミニ整理会をもつ。

イ 外部講師の方々の活用

音楽や図工、理科などでは、専門の方々を招聘し、教師自身も本物に触れ、また児童に還元できる指導の仕方などを学ぶ。

ウ 小小連携、小中連携の取組

森本中学校区の小学校・中学校間で授業交流等を行い、指導力の向上を図る。(各自一回程度の授業参観)